

赤土対策について

八重山支庁農林水産振興課

1. 目的

沖縄県の急速な土地改良やゴルフ場・ホテル等の開発に伴い、赤土の流出が大きな問題となっている。八重山では特に土地改良事業が自然環境に大きな被害を与えている。特に赤土の終着点である海には、サンゴの死滅、それに付随する生物層の破壊等の多大の被害を与えている。このまま赤土の流出が続けば、沖縄の特色でもあるサンゴ礁内での漁業は壊滅してしまうおそれがある。そこで、赤土流出防止への取り組み方を学ぶために、沖縄市漁協の筋和義氏を招いて流出現場視察を行いながら、流出防止への取り組み方についての学習会を行った。

2. 講師

沖縄市漁協 理事 筋 和義
 (元) 沖縄県水産業中央会赤土流出防止対策作業部会長

3. 開催日時・場所

平成11年2月17日(土)

12:00~15:00

石垣島内赤土流出現場視察

15:00~17:00

八重山漁協会議室

平成11年2月18日(日)

8:30~15:30

西表島内赤土流出現場視察

4. 参加者

八重山漁協 青壮年部	11名
職員	1名

石垣市 市議会議員	2名
-----------	----

水産課他	4名
------	----

竹富町経済課	1名
--------	----

八重山支庁	3名
-------	----

八重山保健所	1名
--------	----

赤土流出を考える会	3名
-----------	----

5. 内容

○赤土防止条例について

「赤土防止条例」自体が民間の開発にしか適用されず、国や県の公共事業の場合守る義務はあっても罰則がない。「赤土防止条例」は最初は罰則を伴う条例として整備したかった。また、既存農地、工事中の農地、これから工事する農地の3つを取り締まる条例を要望したが、「これから工事する農地」しか取り締まれない条例ができてしまった。また、200ppmという数値は高すぎると沖縄大学の宇井教授は言われたが、総合事務局側は低すぎるとし、折衝末に200ppmと決まった。

○赤土問題への取り組みについて

赤土問題は幅広い人たちに訴えかけ、取り組んでいかなければならない。最初は水産関係だけでしか情報交換できなかったが、沖縄大学の宇井教授や故吉嶺全二さん達と情報交換するようになってから幅広い情報を得られるようになった。これまで「漁村」や新聞の論壇に投書したりしたが、より多くの人たちに赤土問題について知ってもらうためにホームページを開設した。赤土流出防止対策作業部会の役員改選に伴い、現在は個人で調査を

行っている。恩納村漁協では自分たちの漁場を自分たちで守るために赤土流出が起こった場合、漁協が調査を行い、漁協・県・業者の三者会談を行うことにより被害が大きくなる前に赤土流出をくい止めている。

○赤土流出の現状について

沖縄本島中部の具志川市を流れる天願川流域の土地改良区から流れ出てくる赤土の様子をスライドを用いて説明を行った。天願川流域の場合、畑の横にあるU字溝がすでに赤土で埋まっているために機能せずに降雨時に赤土が道路上にまであふれ出て、アスファルトで舗装された道路が川の代わりになってしまっていた。これは土地改良事業の設計上の問題である。

○赤土対策について

赤土問題は急には解決できない問題である。まず、現状を把握するために監視をする必要がある。天気の悪い日に、漁に行かない漁業者が交代で赤土流出現場を監視し、県・市町村・水産業中央会・漁協と共同で地道に対策を講じて行くしかない。また、赤土を流される漁業者と赤土を流す農家とで共同でできることがないか考えていく必要がある。農家は加害者ではなく表土が流れ出る畑に改造され、負担金を負わされた土地改良事業の被害者である。農家も畑の表土が流れ出ると数年おきに表土の入れ替え等よけいな負担がかかる。漁家と農家共に赤土流出について考える時代になってきている。

○質疑応答

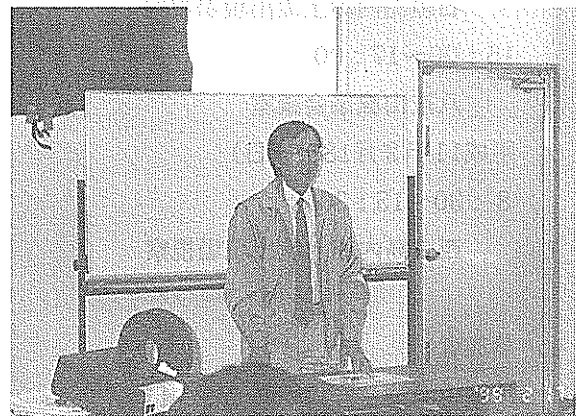
質問1：これまでに終了した事業をやり直す(補修・修繕)必要があるのでは？

回答：これまでに行われてきた沈砂地や沈砂マスを作るだけの対策では赤土流出を防ぐことはできない。畑の傾斜度を3度以下にするか、沈砂池のそこにたまった赤土を頻繁に畑に戻す作業を行わなければならない。又、こうした改善は農家だけでは不可能で、県・市町村といった行政が補助金を出さなければできない。農家も土地改良の負担金等を抱えている被害者である。

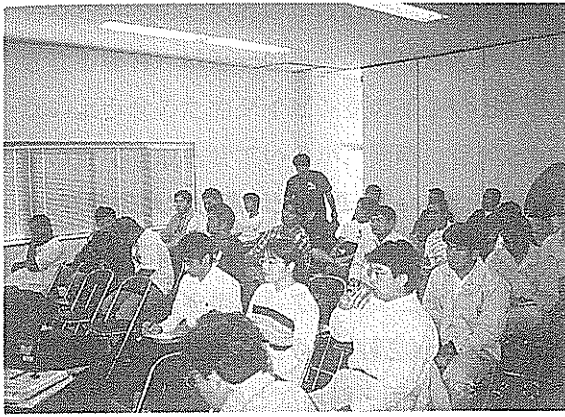
質問2：赤土防止条例の見直しが必要なのは？

回答：赤土防止条例の見直しは現在行われているが、大まかなところは変更できずに、数値に多少の変更がある程度だと思われる。

赤土防止条例自体が民間企業の開発にしか適用されず、国・県の公共事業の場合は守る義務はあるが罰則はない。



講師の蒔 和義氏



石垣島野底の農地開発による赤土流出現場



オオキバショウの植樹による赤土流出対策



西表島船浦の表土流出によるガリ

赤土専門家招き勉強会



赤土対策の在り方などを学習した八重山漁協会議室

勉強会には赤土対策推進部
のダイバー、市議、自治体
関係者約三十人が参加
した。県八重山支庁の船
浦、西表島船浦、西表島
赤土流出対策協議会が
「赤土流出防止対策」の
開催の目的を説明し、赤
土流出防止対策の重要性
を強調し、赤土流出防止
対策の在り方などを説明
した。

八重山漁協、ダイバー、市議が参加

防止は官民一体で 汚染調査の重要性指摘

赤土流出防止対策推進部
のダイバー、市議、自治体
関係者約三十人が参加
した。県八重山支庁の船
浦、西表島船浦、西表島
赤土流出対策協議会が
「赤土流出防止対策」の
開催の目的を説明し、赤
土流出防止対策の重要性
を強調し、赤土流出防止
対策の在り方などを説明
した。

平成11年2月7日 八重山毎日新聞